

令和2年度学校評価報告書

■ 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

【教育活動に関する評価】

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	基礎・基本の定着に向けた授業、探究活動、資格取得指導については、生徒・保護者からの肯定度も高く、教員の意識も高い。学習習慣の定着に向けた取組が不十分である。学習に対する興味・関心を喚起できる学習指導や評価方法を研究して、成果が保護者や地域にも伝わる工夫が必要である。	家庭学習の定着に向けた効果的な取組を期待する。改善の方策に具体性が乏しいため、評価方法を含め、成果や課題の具現化が必要である。
改善方策	ICT機器を用いた遠隔授業の有効活用を図る。基礎基本の定着だけではなく、更に幅広い興味・関心に応えられる教育課程を目指す。面談を通じて、適切な学び方指導を進めるとともに、評価方法の研究などを進め、授業改善や学習指導の改善につなげていく。	
生徒指導	挨拶、遅刻、身だしなみ等含む基本的生活習慣の確立のため、全職員の共通理解のもと継続して指導できた。様々な行事や講演会がコロナ禍により中止となり、コミュニケーション能力を育成する場が制限されたが工夫して行った。一部、個別の相談体制の充実を求める生徒・保護者が見られた。	小規模校であることを活かしてのきめの細かい指導や個別支援に期待する。現代社会において、スマートフォンのトラブル等、生活習慣も含め、自身を守ることができる環境を確立してもらいたい。
改善方策	スマートフォンのトラブル防止に向け、使用方法の危険性や性に関わる講話を行う。日常生活の中で善悪の判断や規範意識の向上を目指す指導に力を入れる。生徒の主体性を育てる学校行事や部活動の取組を推進する。教育的支援が必要な生徒に対しての支援の充実を図る。	
進路指導	コロナ禍によりインターンシップや説明会など多くの取組が中止となる中、総合的な学習の時間やオンライン説明会など、変更・工夫しながら一定の成果をあげることができた。	コロナ禍によりいろいろな取組が中止になり、オンライン等で工夫が見られる。生徒たちの個別の多様性のある対応が必要と感じられる。
改善方策	時代の変化、入試システムの変化に合わせ、従来の指導やガイダンスの在り方にも変更を加えて行く必要がある。個別の多様な進路情報の提供を図り、生徒の視野を広げ、挑戦する意欲を醸成する。	
健康・安全指導	日常の清掃及び管理区域の点検については、教職員の理解と協力により目標を達成できた。保健指導・疾病予防についても、養護教諭のきめ細やかな対応が成果を残した。	コロナ禍により生徒の健康面での安全・安心な生活を指導できたのは評価できる。
改善方策	生徒が健康・安全について意識し行動できるよう、学校でのあらゆる教育活動の中で意識づけ・注意喚起を行いたい。	

【学校運営に関する評価】

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
信頼される学校づくり	様々なPTA行事や懇談会が中止となり、本校の教育活動の成果を直接発信することが十分にできなかった。地域との繋がりを意識し、積極的にそれを発信することで、生徒の自己肯定感や地域への帰属感を高めていけると思われる。	コロナ対策の中、概ね達成できていることは良い評価である。アフターコロナにおいては、単に従前の姿に戻すのではなく、今の経験を踏まえた新しい取組が必要である。
改善方策	HPやオンラインシステムを効果的に活用して、生徒や保護者へのPRを強化するとともに、魅力ある学校だよりを計画的に発行し、保護者・地域への発信を工夫することで、学校理解・信頼度のさらなる向上につなげる。 評価項目に組織運営についての項目を増やし、働き方改革や学校給食の改善についての検証をしていく。	